

二井光瀨 みつる ドイツ文學者。明治二十二年六月二日山形縣生れ、昭和二十七年九月二日歿（八七〇—九五二）。大正四年東京帝國大學文科大學獨文科卒。六年雜誌『忠林』（のち『動靜』、『文潮』と改題）創刊。

譯書『シユニッツレニ戯曲集』（撰譯、大正十二年四月十八日春陽堂）、『オストリンドブルク小説全集・第三卷―痴人の告白』（大正十三年六月八日新潮社）、『ヘルマン・ハッセ作『シツタルタ』（大正十四年一月）『十五日新潮社』『海外文學新選』（『オストリンドブルク戯曲全集・第四卷―罪と罪・死の舞踏』（大正十五年十一月二十五日新潮社）、『ストリンドベリ作『痴人の告白・死の舞踏 其他』（昭和二年十一月）『二十日新潮社』『世界文學全集』（同『痴人の告白』全二冊）（上卷・昭和十年二月二十五日、下卷・五月）『二十日新潮社』『新潮文庫』等。

著書『獨逸文學十講』（大正十五年六月七日新潮社『思想・文藝講義叢書』）、『父親としてのゲーテ』（昭和十六年九月二十五日第一書房）、『獨逸文學十講・前編』（昭和二十四年六月一日今日社）等。